

授業モデル2 (小学校第6学年 NEW HORIZON Elementary Unit7 My Best Memory)

小学校では、内容を理解し自己表現につなげるため「話すこと・聞くこと」に十分に慣れ親しませることを目指した授業が大切です。



1 単元名	NEW HORIZON English Elementary 2 Unit 7 My Best Memory		
2 目標	(1) コミュニケーション活動に意欲的に取り組むことができる。 (2) 学校生活の思い出について、伝え合うことができる。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深める。		
授業充実の3ポイント 〔目標の明確化〕 ○ 興味・関心が生まれる導入 ○ 課題意識の焦点化と学習課題の設定	<p>1 英語であいさつをする。</p> <p>2 チャンツをする。(Let's Chant)</p> <p>3 Small Talk をする。 〔Small Talk の例〕 A: What did you do during winter vacation? B: I played soccer. How about you?</p> <p>4 本時のタスクを確認する。 思い出に残った行事についてたずね合い、楽しんだことを伝え合うことができる。</p>	分 10	<p>○…教師の具体的な働きかけ ◇…評価</p> <p>○ 英語であいさつをした後、天気・曜日・日付を尋ねる。 ○ チャンツをすることで、一番思い出に残った行事に関する単語や表現を練習する。</p> <p>・ Small talk の最後で児童から教師に質問させる。 ・ Small talk の最後の教師の発話から本時のタスクに必要な表現を確認する。 A: How about you? B: My best memory is Christmas. I enjoyed eating Christmas cake.</p> <p>○ 単元の最後に設定している ALT とのやり取りを具体的にイメージさせ、本時の学習の見通しをもたせる。</p>
○ 解決の予想と見通し	<p>5 Word Link で楽しんだことを伝える表現を確認する。 〔楽しんだことを伝える表現〕 I enjoyed ~ing. ・ チャンツ形式で練習する。 ・ チャンツの例 I enjoyed singing. I enjoyed running. 等</p> <p>6 Let's Try③で一番思い出に残った行事を4線に書き写す。楽しんだことを日本語で記入する。</p> <p>7 一番思い出に残った行事についての尋ね方や答え方を確認する。</p> <p>8 Let's Try③で一番思い出に残った行事を友達にインタビューする。 〔Let's Try の例〕 A: What is your best memory? B: My best memory is school trip. A: What did you enjoy? B: I enjoyed talking with my friends.</p>	分 25	<p>○ ジェスチャーを入れながらチャンツをすることで、本時で学習する外国語に親しむことができるようにする。 ○ PD18~19 から題材にふさわしい動詞を抜粋して取り組む。</p> <p>・ 書くときのルール (P32) で書き方のポイントを提示し、正しく書けているか自分自身で確かめさせるようにする。 ・ 楽しんだことを複数考えさせることで、相手に伝えやすい表現を自己決定できるようにする。</p> <p>○ モデルスキットを提示することで、児童が尋ね方や答え方を類推できるようにする。</p> <p>○ ペアでインタビュー活動をさせ、英語での表現が間違っていたり、分からなかったりしたものについて全体で共有し、言い方を確認する。 ○ 目線、リアクション、表情、音量、ジェスチャーを意識させ、活動させる。</p> <p>・ これまで学習してきた表現を想起し、自分の考えを深く伝えるようにする。</p> <p>◇ 一番思い出に残った行事について、インタビューを通して積極的に伝えたり、聞いたりすることができているか。 ○ ペアのやり取りを学級全体で共有し、活動を振り返らせる。</p>
〔山場の工夫〕 ○ 自力解決による最初の考え(仮説)の構築 ○ 考えの交流(学び合い) ○ 自力解決による最終的な考えの構築	<p>9 何組かのペアがやり取りを発表する。</p> <p>10 本時のまとめをする。 I enjoyed talking.</p> <p>11 Let's Read and Write で、本時で学習したことを書いて、確認する。(P.89 Unit 7④)</p> <p>12 振り返りカードを記入する。</p> <p>13 次時の学習について、確認する。</p>	分 10	<p>○ 本時で学習した表現をもとに、自分の楽しんだことを伝える表現を書き写すなどしながら、書くことができているか。 ○ 「確かめ・見届け」では書き方のポイントを提示し、児童同士での確認ができるようにする。さらに、振り返りカードにできるようになったことなどを書かせ、教師が児童の気付きや変容について見届け、今後の指導に生かす。</p>
【コアティーチャーネットワークプロジェクト外国語科部員】 山口 のどか(奄美小) 川上 潔(大和小) 加藤 照美(龍郷小) 時田 三紀(大和中) 白坂 甫(古仁屋中) 別府 友美(赤徳中) 長 蘭 誠(与論中) 前田 剛(大和村教育委員会) 宮之脇 圭(大島教育事務所)			

令和3年度

学力定着のためのリーフレット 外国語活動・外国語科編

=コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ=

大島教育事務所

「未来の創り手を育成する学力向上プログラム」の一環として行われた本事業で「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。大島地区で課題がある観点や領域、技能に焦点を当て、効果的な指導例を紹介していますので、ぜひ参考にして日々の授業に生かしてください。

1 大島地区の外国語科の課題

(1) 「鹿児島学習定着度調査」の結果(県の平均正答率との差)から

学年	内容・領域	県の平均正答率との差		大きな差の見られた出題内容例 (令和2年度)
		R元年度	R2年度	
中学 1年	聞くこと	-1.3	-3.2	・ 対話文中で、does を使った否定文の正しい語順を答えることができるか。(1年 -11.5%) ・ 書かれた内容に対して、自分の行動を示すことができるよう、話の内容を捉えることができるか。(1年 -9.6%)
	話すこと	-0.8	-3.6	
	読むこと	-1.0	-4.2	
中学 2年	聞くこと	-0.6	-0.1	・ 対話文の内容を正確に把握し、対話の流れに合う疑問文を選択することができるか。(1年 -7.9%) ・ 話の内容や書き手の意見などを捉え、自分の考えを示すことができるか。(2年 -6.9%)
	話すこと	-1.6	0.4	
	読むこと	0.7	-2.1	
	書くこと	-1.2	0.1	



・ 中学1年は全ての内容・領域で県平均との差が大きい。
・ 中学1年、2年ともに、「読むこと」に課題が見られる。⇒理解するための基礎となる「話すこと」の能力も同時に高めていく必要がある。

(2) 「鹿児島学習定着度調査」の質問紙等から(5教科を通して)

日頃の授業では、どのような活動をする人が多いですか。

- 先生の説明を聞く
[小5: 20.7 中1: 31.0 中2: 32.0]
- ペアやグループで考えを出し合ったり、教え合ったりする
[小5: 15.1 中1: 19.9 中2: 21.8]
- 課題について、調べ学習をする
[小5: 10.3 中1: 7.4 中2: 6.8]
- 自分の考えや資料をもとに、話し合う
[小5: 8.2 中1: 4.3 中2: 3.8]

どのような授業で学んでいて、とてもやりがいを感じますか。

- 先生の説明の時間が多い授業
[小5: 16.0 中1: 10.3 中2: 6.2]
- ◎ 自分たちで調べて、課題を解決する授業
[小5: 53.3 中1: 54.6 中2: 45.8]
- ◎ 難しい課題に挑戦する授業
[小5: 50.4 中1: 46.9 中2: 37.5]
- ◎ 自分たちで考えたり、話し合ったりする授業
[小5: 45.4 中1: 48.8 中2: 39.5]

「児童生徒が English User として活躍する外国語の授業」を目指し、教科書で学んだことを生かす Authentic な活動(児童生徒が内発的に英語を使う必然性がある活動)を設定したタスク達成型の授業を行い、「話すこと(表現)」で音声に触れさせてから「読むこと(理解)」へ結びつけた後に表現する学習活動を展開することが有効であると考えました。



2 授業づくりのポイント

- 【視点1】 「話すこと」から「読むこと(理解)」へつなげる授業構成の工夫
(小・中) 発話や対話、音読を充実させ、音声に触れる機会を増やす
- 【視点2】 理解したことから「自分の考え」を表現する場面の設定
(小) 聞いたことから考えを話す (中) 推論発問に対して自分の考えを表現する

授業モデル1 (中学校2年生 NEW HORIZON English Course 2 Unit 6)

1 単元の概要

- (1) 単元名 NEW HORIZON English Course 2 Unit 6 Research Your Topic (全8時間)
- (2) Large Task ALTの先生に「わたしたちのこと、ちゃんと知ってるよね?」クイズを出題しよう。(自分たちの詳細について知ってもらう目的で、単元の最後に実施する。)
- (3) 主な言語材料 比較表現(比較級, 最上級, 原級比較など)

2 本時の授業の概要(6/8)

- (1) Today's Goal 調査結果発表を読み取り、自分の考えを付け加えて書くことができる。
- (2) 本時の指導のポイント
 - ア 既習の言語材料を活用した対話活動を積極的に取り入れることで、外国語の音声に触れる機会を増やす。
 - イ 繰り返し音読する活動に取り組むことで、読む速さや抑揚などにも注目させ、発話への橋渡しになるようにする。
 - ウ 本文の内容に基づいた推論発問に取り組むことで、深い理解に基づいて自分の意見や考えを表現する力を高める。
- (3) 前時(第5時)の主な学習活動
 - ・ 言語材料(better及びbest)の用法を理解し、それを活用した言語活動をする。
 - ・ 前半部分を中心に読んで概要を把握し、説明するのに適切なグラフを選ぶ。(教科書Round 1, Round 3を活用)

3 本時の実際

授業充実の3ポイント	主な学習活動	分	○...教師の具体的な働きかけ ◇...評価
[目標の明確化] ○ 興味・関心が生まれる導入	1 Greetings and Warm-up あいさつの後、前時の言語材料を活用した対話活動を行う。 [教師の指示例] First, let's do janken with your friend. Winners, ask your partner, "What movie do you like the best?" Only winners can ask. If you ask three friends, you can sit down. Are you ready? Let's start!	5	○ 身近な話題と関連付けるとともに、ゲーム的要素を加えることで、生徒の学習意欲を喚起する。 ○ ただ質問するだけでなく、うなずいたり、自分の考えを付け加えたりし、相手の発話に応じるように心がけさせる。 既習事項を活用させながら英語で積極的に対話する場面を設定し、聞き取る力を高めることで、理解する力を高めます。
	2 Review 新出語句と本文概要を振り返る。	2	○ 教師とのインタラクションを通して、本時の学習に必要な語句や表現を復習する。
○ 課題意識の焦点化と学習課題の設定 ○ 解決の予想と見通し	3 Today's Goal 本時の目標を確認する。 調査結果の発表を読み取り、自分の考えを付け加えて書くことができる。	1	○ Large TaskでALTとやり取りしている場面を具体的にイメージさせながら、本時の学習の見通しをもたせる。
[山場の工夫] ○ 自力解決による最初の考え(仮説)の構築	4 Comprehension I (1) 本文を黙読し、Round 2に示された問いが本文の内容に一致するかを答える。 (2) 自分の答えをグループで共有して意見交換する。 (3) 全体で答えを確認する。	7	○ 正誤のみでなく、答えの根拠となる英文を本文中から見つけさせ下線を引かせる。 ○ 正誤問題を解く上で重要になる、動作主(誰がしたか)、内容や数値(映画のジャンルは何か、調査結果の人数は何人か)などのリーディングポイントを提示し、必要に応じて詳しい解説を加え、インタラクションを通して答えを確認する。 ○ 生徒同士が、自分の考えの根拠を示しながら共有し合うことで、本文への深い理解につなげる。 ◇ 英文を理解し、根拠を明らかにして自分の答えをまとめることができたか。

視点1

視点2

視点3

○ 考えの共有(学び合い)	5 Comprehension II and Bottom-up (1) Round 2-2に示された課題を読み、答えになる箇所を本文中から探す。 (2) 自分の答えをグループで共有して意見交換する。 (3) 全体で答えを確認する。 (4) 読み取りのポイントとなる表現について教師の説明を聞く。	10	○ Comprehension Iよりも難易度が高まるため、必要に応じて本文を再読する時間を設ける。 ○ 下線を引かせ、どういった内容かを日本語で説明できるように考えさせる。 ○ more than, kinds of などの、本文を理解する上で重要な表現については補足説明をする。 ◇ 指示語が指す内容を読み取ることができたか。	
	6 Reading Aloud 文字から発話につながるように、段階を経て、さまざまな形式で音読練習する。 (1) Chorus Reading 全体で、教師の範読やデジタル教科書の音声に続き音読する。 (2) Pair Reading 2人組で交互に音読する。 (3) Buzz Reading 各自の速度で全文を音読する。 (4) Karaoke Reading 全体で、音声なしのデジタル教科書を見ながら、表示画面のアニメーションに合わせて音読する。 (5) Shadowing 全体で、音声ありのデジタル教科書を見ながら、聞こえてきた音声に合わせて音読する。	13	○ 生徒が間違いを恐れることなく、あらゆる知識や方法を駆使しながら、最後まで音読に挑戦しようとする意欲を高める。 さまざまな音読活動を組み合わせることで、生徒を飽きさせることなく繰り返し英語の音声に触れさせるとともに、音読しながら互いの声を聞くことで、英語を聞いて理解する力を高めます。 音読の形態については、生徒の実態に合わせてとどろんどろろ工夫することができます。 [音読活動を組み立てる際の視点例] ○ 人数の設定(全体、グループ、ペア、個人) ○ 学び合う場面の設定(助け合い、教え合う環境づくり) ○ 制限の有無(時間制限、速度など) ○ ICT機器の活用(デジタル教科書の活用など)	
	[確かめ・見届け] ○ 自力解決による最終的な考えの構築 ○ 学習のまとめ	7 Consolidation (1) 本文に関する、教師からの推論発問に對して、自分の考えを書く。 (発問1) Do you think Josh likes animated movies? Why? (発問2) That was a big surprise to us. に続く1文を考えて答えよ。 (That was a big surprise to us.) We should see animated movies. I love animated movies the best of all.	10	○ 推論発問のうち、最初はYes/Noで答えられる問題にすることで難易度を調整し、生徒が取りかき易くなるように配慮する。 ○ 生徒が理由や根拠を述べる際は、必要に応じて日本語で説明してもよいものとする。 推論発問を行うことで、本文の内容理解をより深めるとともに、新出のみならず、学んだことを踏まえた自分の考えを表現する力を高めます。 ◇ 本文の内容を踏まえ、自分なりの根拠をもって、本文に続く自分の考えを表現することができたか。
○ 学習のまとめ ○ 習熟 ○ 振り返り	8 Self-evaluation 本時の取組を自己評価する。 9 Assignment 家庭学習を指示する。 10 Greetings 英語であいさつをする。	2	○ ゴールの確認と行った活動の振り返りを、自分の言葉でまとめさせる。 ○ 令和2年度鹿児島学習定着度調査[6]③の問題に取り組ませることで、本時の学習が定着しているか見届けを行う。	